



協力と抵抗の内面史

5月24日発売

戦時下を生きたキリスト者たちの研究

富坂キリスト教センター編

◆四六判・274頁・本体2000円

戦時下を生きたキリスト者たちを、「戦争協力者」や「抵抗者」といった一面的な評価で裁断できるのか。富坂キリスト教センターの「内面史研究会」は、H・E・テートの方法論に学びつつ、キリスト者個々人の内面の歩みに注目し、当事者の葛藤、相克や矛盾などを検証することにより、太平洋戦争下のキリスト者たちの追隨・加担・協力、そして沈黙・拒否・抵抗の諸相を重層的に跡づけようとする。本書では、日

本人キリスト者のみならず植民地下の現地のキリスト者にも着目する。キリスト教思想史・教会史への新たな視角。

▼関連書

富坂キリスト教センター編

十五年戦争期の天皇制とキリスト教

◆四六判・620頁・本体5700円

ほぼ全教派が論及の対象となっている学際的研究の成果。

土肥昭夫著

◆A5判・528頁・本体4700円

天皇とキリスト

近現代天皇制とキリスト教の教会史的考察

教界指導者、学校、ジャーナリズムなどの多様な側面に迫る。このテーマを考える上で必読の文献。

【目次より】

「日本の基督教」への道のり——今泉源吉のあゆみ

大久保正禎

罪責感について——ホーリネス史から考える戦争責任

上中 栄

戦時下説教の実像——大連西広場教会月報『靈光』を中心にして

戒能信生

戦時下を生きた牧師 廣野捨二郎

矢吹大吾

日本統治末期の朝鮮における信仰弾圧とクリスチャンの内面分析——朴允相と孫良源のケース

徐 正敏

植民地期朝鮮における「信教の自由」——「改正私立学校規則」と「神社参拝問題」を巡って

李 省展

戦時期台湾におけるキリスト教徒の「内面」を問う

高井ヘラー由紀

宣教師の見た日本人牧師——「満洲国」のキリスト教界を例として

渡辺祐子

H・E・テートの内面史研究

山崎和明

夜と霧の明け渡る日に

6月10日発売

未発表書簡、草稿、講演

◆四六判・312頁・本体2400円

ヴィクトール・フランクル／アレクサンダー・バティアーニ編／赤坂桃子訳

戦後の新たな人生を歩みだそうとするとき、フランクルは何を感じ、
考えていたのか。いま明かされる名著誕生の背景。

強制収容所からの解放と帰郷という、フランクルの人生において最も重要な時期の伝記的な事実と、
当時の中心思想の一端を、未公開書簡と文書を用いて再構成する。

名著『夜と霧』誕生の背後にあった個人史と時代史の二つの文脈が、初めて明確に交差する。

編者は、膨大なフランクル文献に最も詳しい、ウィーンのヴィクトール・フランクル研究所所長アレ
クサンダー・バティアーニ博士。



『夜と霧』執筆の頃のフランクル

ヴィクトール・フランクル（1905—97） ウィーン大学の神経学お
よび精神医学の教授で、ウィーン総合病院神経科科長も25年間にわた
って務めた。フランクルが創始した「ロゴセラピー／実存分析」は、「心
理療法の第三ウィーン学派」とも称される。ハーバード大学ならびに
スタンフォード、ダラス、ピッツバーグの各大学で教鞭をとり、カリ
フォルニア州サンディエゴにあるアメリカ合衆国国際大学のロゴセラ
ピー講座の教授も務めた。フランクルの39冊の著作は、これまでに43
か国語で出版されている。"troitzdem Ja zum Leben sagen"（邦訳名『夜
と霧』の英語版は「ミリオンセラー」となり、「アメリカでもっとも人々
に影響を与えた10冊の本」に選ばれた。

ミラ・ゾンターク編

〈グローバルヒストリー〉の中のキリスト教

近代アジアの出版メディアとネットワーク形成 大陸をまたぐネットワークと多極構造を反映する新たなキリスト教史の構築を目指す「ミューン学派」。主導するコンヨルケ氏ら八名の論者が、近代東アジアにおける活字メディアに着目した意欲的共同研究。

◆A5判・予価3700円

山下壮起著

ヒップホップ・レザレクション

ラップ・ミュージックとキリスト教 今や世界的大衆文化となったヒップホップ。その最初の担い手であったアフリカ系アメリカ人における宗教的機能を探り、ヒップホップと既存教会との関係や聖俗観・救済観を検討する。気鋭の神学者による注目作。

◆A5変型判・予価3200円

カルヴァン著／堀江知己訳

アモス書講義

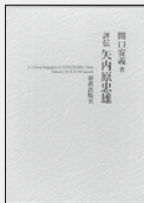
1559年に創設されたジュネーヴ大学で、カルヴァンが週3日、隔週で行った講義の記録。ヘブライ語原典を自らラテン語に訳し、逐条的に入念なパラフレーズを行うスタイル。注解書とは趣を異にするライブ感溢れたカルヴァンの講義の様子を生き活きと伝える。

◆A5判判・予価5000円

●4月に出た本と雑誌

評伝 矢内原忠雄

関口安義著



優れた経済学者、また軍国日本と対決した預言者、そして戦後日本の精神的再建に挺身した生涯を、綿密な調査と膨大な資料を基に描きあげた1100枚を越す評伝の決定版。

◆A5判・本体8000円

橋をつくるために

教皇フランシスコ／ドミニク・ヴォルトン／戸口民也訳
現代世界の諸問題をめぐる対話



戦争、貧困、難民、文化的アイデンティティと伝統、異なる者同士のコミュニケーション、教会のあり方等々のテーマをめぐり、1年間12回にわたって行われた白熱のロングインタビュー。

◆四六判・本体2600円

福音と世界

5月号 老いをいかに生きるか

◆税込635円

寄稿者：関田寛雄、横田幸子、中村正俊、天田城介、永易至文／マニエル・ヤン、石井光太、辻学、谷崎榴美、松居直美、長谷川修一、山口政隆、若名定道、内田樹、佐藤優

●3月30日、東京で開催されたシンポジウム『イレズミ・タトゥーと多文化共生——「温泉タトゥー問題」への取り組みを知る』に参加してきました。以前『福音と世界』の取材でお世話になり、今回の実行委員会代表をつとめられた山本芳美さん（都留文科大）のご紹介をうけてです。シンポでは、訪日外国人が増加する一方なおも温泉などの公的空間でタトゥーが排除されている現状を整理しつつ、多文化共生社会を切りひらくための視座のひとつとしてタトゥーをとらえるおすさまじな報告がなされました。気鋭の哲学者・千葉雅也さんの発表をはじめいづれも興味深かったのですが、もっとも印象的だったのはゲストスピーカーのマット・ローダーさんの存在感です。社会科学の名門、英・エセックス大学の上級講師として美術史を教えるローダーさんの身体には、首までも埋め尽くすたさんのタトゥー！聞けばスプリットタン（舌先を二叉に切開する身体改造）もされているとか。日本でもタトゥーやスプリットタンの愛好家の方はいますが、けっしてメジャーではありません。まして、その身体で大学教員をつとめることはまず許されないう。私は、いち

ど彫ると消すことができず宗教文化などとの関わりも深いタトゥーが、単なるポップカルチャーのひとつとなることが望ましい、とは必ずしも思いません。ですが、サブカルチャーでありつつづけることと公的空間に現れる権利は、はたして両立しえないのでしょうか。ローダーさんの存在じたいが、その答えを物語っているように感じたのです。施錠された公的空間をこじあける「不和」として。（堀）

●憲法記念日にこの小文を書いていました。編集子の好きな条文は第十四条。「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。華族その他の貴族の制度は、これを認めない。」天皇と皇族のあり方を規定する憲法第一章および皇室典範が、十四条と不協和音を引き起こし続けて今日に至っています。生まれながら「国民」の外に置かれ、多くの権利を奪われている気の毒な一族が存在することを、私たちはいつまで放置してよいのでしょうか。もちろん、このいびつな状態はあの人たちだけに及ぶ問題ではなく、私たちの権利と平等性をも常に浸蝕し脅かしていることは明らかです。（小林）

福音と世界

2019年
6

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8460円

特集「差別」再考

「差別する可能性」と「差別的日常」——好井裕明
性の多様性と寛容——風間 孝
「カミングアウトしてほしい」といっ

欲望について——三部倫子
まともになり欠ける人びと——「アルビノ」は
どうやって生きてきたのか？をめぐるせめぎ合い——矢吹康夫

和解の概念を考える——差別のトラウマの
視点から——李 恩子

〈聖別〉という差別温存装置——キリスト教
のもつ他者理解の不可能性——堀江有里
誰をいかなる理由で排除しようとしている
のか？——SNSにおけるトランス女性差別
現象から——堀あきこ

【好評連載より】

- ◆バビロンの路上で 3……………マニエル・ヤン
- ◆神の酒 3……………石井光太
- ◆新約釈義 テトス書 3……………辻 学
- ◆福音書記者の饗宴 6……………松本あずさ
- ◆遺跡が語る聖書の世界 7……………長谷川修一
- ◆聖書とわたし 39……………窪 美澄
- ◆レヴィナスの時論 50……………内田 樹
- ◆ことばの履歴書 63……………佐藤 優